

北海道浮魚ニュース

令和5(2023)年度6号

2023年6月26日

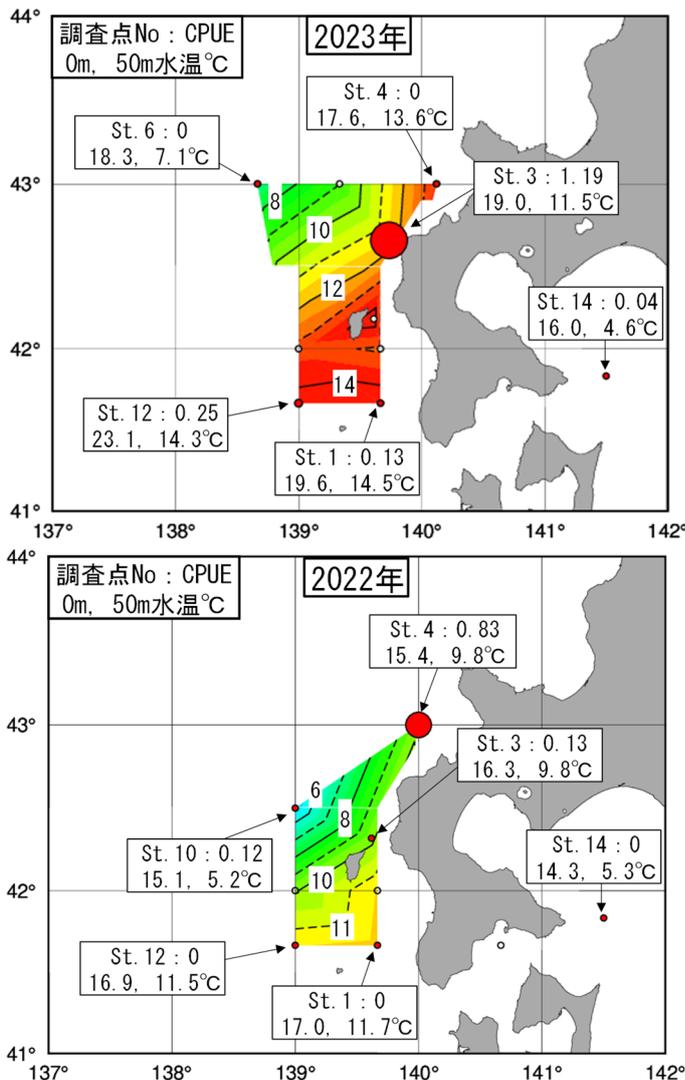
道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎スルメイカ漁場一斉調査結果

6月14日～22日の期間、北海道南部日本海および太平洋側の恵山沖で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は非常に低く、平均CPUEは2010年以降で2番目に低い値でした。
- ・スルメイカのサイズは昨年および過去5年平均より小型でした。



1. 水温分布(図1)

2023年の日本海側の漁獲調査点5地点の表面水温は17.6～23.1°C(昨年5調査点:15.1～17.0°C)、深度50m層の水温は7.1～14.5°C(昨年:5.2～11.7°C)でした。

深度50m層では昨年より暖かい水が南から張り出しており、水温は調査海域の南部から沿岸寄りにかけて高くなっていました。深度50mで10°C以上の水温帯は、調査海域の北西部を除く大部分の範囲に分布していました。

太平洋側の恵山沖(St.14)では表面水温が16.0°C(昨年14.3°C)、50m深が4.6°C(昨年5.3°C)でした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの水温分布図(上:2023年、下:2022年)
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測点

2. 流向流速分布 (図 2)

本調査の航行中に ADCP 観測により得られた深度 50m の流向流速と水温分布を照らし合わせると、対馬暖流は奥尻島西方を北北東方向へ向かっていると考えられました。また、奥尻島の南東沖では南方へ向かい、松前沖で津軽海峡方向へ向かう流れが見られました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらをご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/sokuhou/>

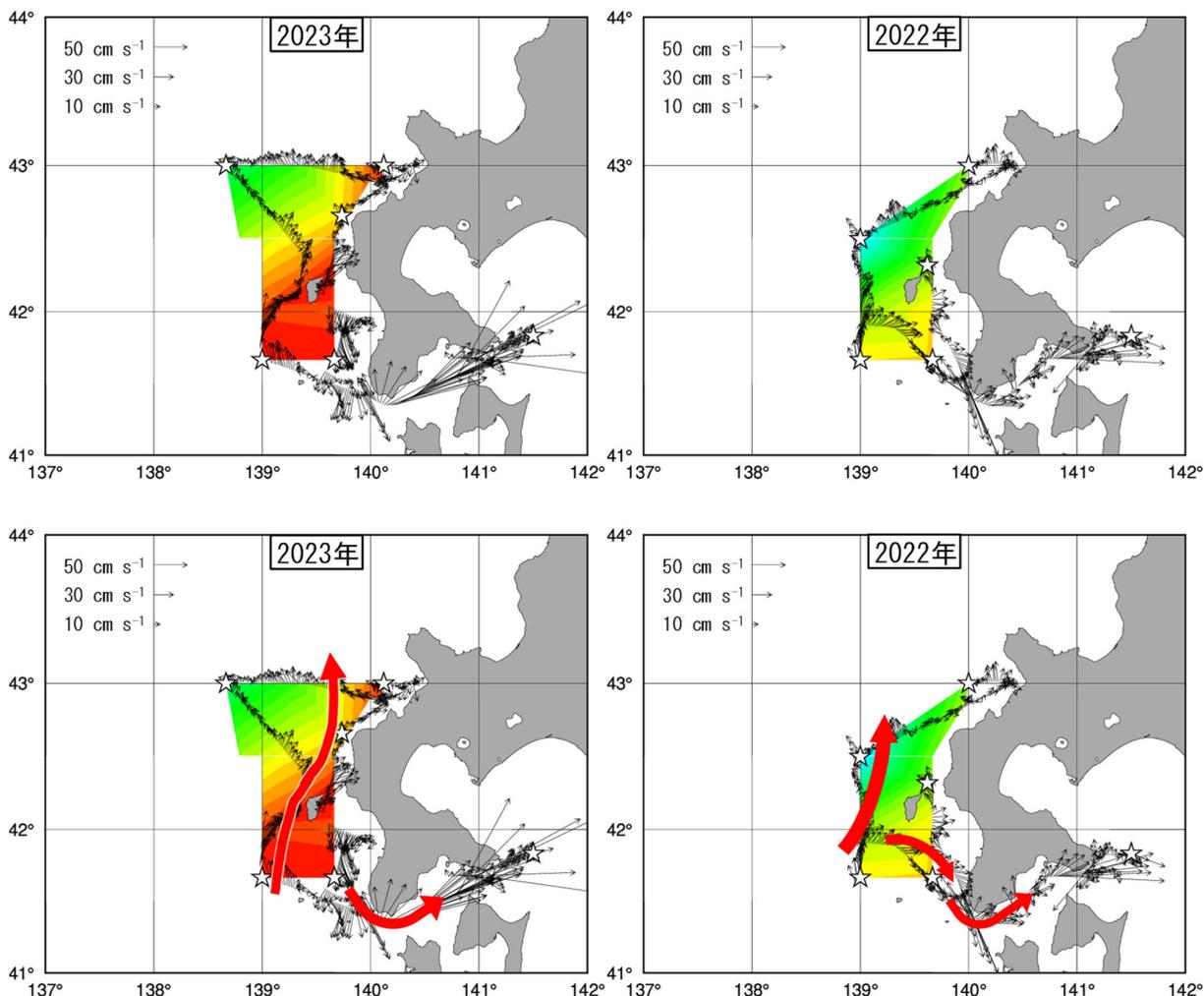


図 2 2023 年 (左) と 2022 年 (右) の深度 50m の流向流速と水温分布図

下段の赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点

3. スルメイカの分布密度 (図 1、3)

日本海の漁獲調査は計画していた 7 地点のうち、5 地点で実施できました。漁獲調査を行った 5 地点における CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0~1.19 (昨年: 0~0.83) でした。CPUE が最も高かったのは瀬棚沿岸 (St. 3) の 1.19 で、それ以外の 4 地点は 0.3 を下回る低い値でした。漁獲調査 5 地点の平均 CPUE は 0.31 で、昨年の 5 地点の平均値 (0.22) と同程度で、過去 5 年の平均値 (5.56) を下回り、2010 年以降で 2 番目に低

い値となりました。

また太平洋側の恵山沖 (St. 14) では1尾が漁獲され、CPUEは0.04 (昨年: 0) でした。

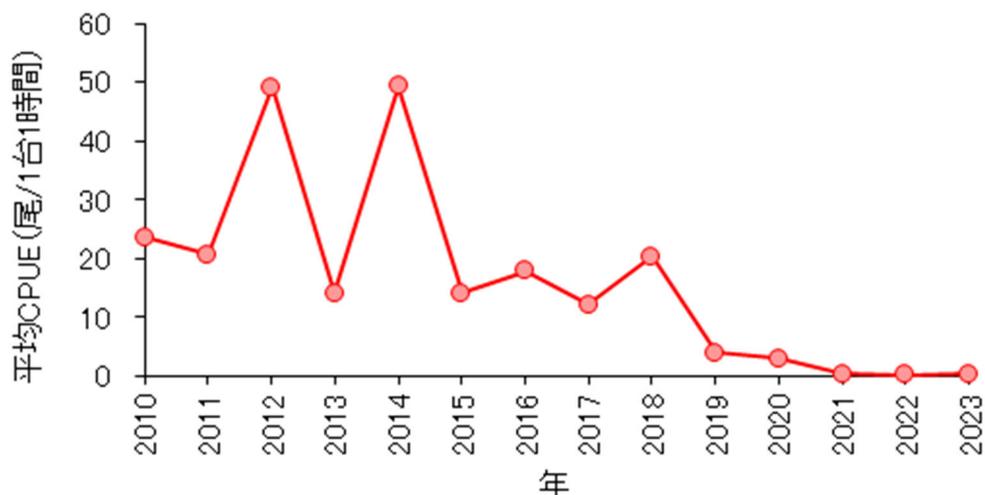


図3 日本海の漁場一斉調査における平均CPUEの推移

4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲された日本海側5地点のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は5~18cm(昨年: 12~19cm)、最も出現比率が高かった外套長(モード)は15cm(昨年: 17cm、過去5年平均: 16cm)、外套長の平均値は14.2cm(昨年: 16.4cm、過去5年平均: 16.2cm)であり、今回の外套長組成は昨年および過去5年平均よりも小型でした。

太平洋側の恵山沖(St. 14)で漁獲された1個体の外套長は17.2cmでした。

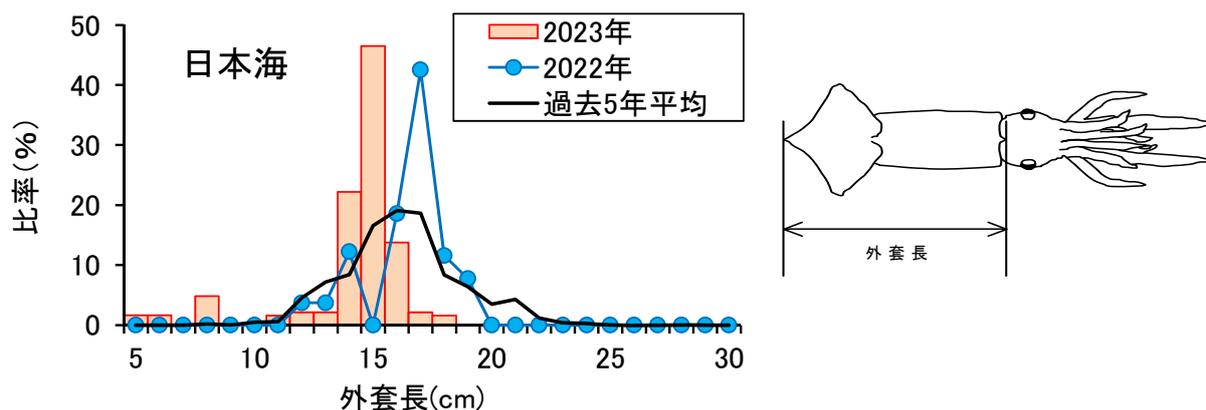


図4 日本海スルメイカの外套長組成